

あまつなぎ 大庄南地域包括支援センター共催 多職種研修

今年度は、あまつなぎと各地域包括支援センター共催で『身寄りのいない高齢者支援のための知恵袋 読み合わせ研修』（多職種研修）を行います。

大庄南地域包括支援センターと共催し、2月19日（金）の14:00~15:30 ZOOMを使ってWebで開催されました。参加は関係者含め22名でした。

本日の流れ

時間	内容
14:00~14:03	はじめに 本日の流れの説明
14:03~14:33	「身寄りのいない高齢者のための知恵袋」の概要説明
14:33~14:35	グループワークの説明
14:35~15:05	グループワーク(3~4人のグループに自動で別れます) 自己紹介 話し合う内容 ・グループで話し合いたいテーマの知恵袋を決める ・選んだ知恵袋を読み合わせする ・これまでの経験や、知恵袋について思ったことや、気づいたことを話し合う。
15:05~15:15	全体画面に戻り、各グループの発表
15:15~15:25	本日の研修の感想
15:25~15:30	おわりに



司会は
大庄南地域包
括支援センタ
ーの出口さん

【画面共有用】身寄りのいない高齢者支援のための知恵袋(案66).docx - Word

参考資料 差し込み文書 校閲 表示 DocuWorks 実行したい作業を入力してください...

1 本知恵袋の目的（現状と課題）

本市では、医療や介護に関わる17団体が月に1回集い、医療・介護連携を推進すべく、市内の課題の共有やその解決に向けた取り組みの検討を行っています（**尼崎市医療・介護連携協議会**）。その中で、**近年特に課題として挙げられていたのが、「身寄りのいない高齢者」の支援でした。**

身寄りのいない高齢者の場合、様々な場面で「**緊急連絡先は誰が担うのか**」「**身元保証人は誰が担うのか**」「**身元引受人は誰が担うのか**」といった問題などが付随します。一方で、現場でその支援にあたる医療・介護関係者は、「**誰の業務なのか**」「**誰の業務でもないのではないか**」「**しかし誰かがしないと**いけない」という葛藤に陥ることが多々あります。

超高齢社会に直面し、今後、身寄りのいない高齢者の増加が見込まれることから、本協議会では、その支援にあたる医療・介護関係者の一助となるべく、各課題に対する「**原則的な考え方**」と「**アドバイス**（『このような対応も考えられるかもしれない』）」を含めて「**知恵袋**」としてまとめることとしました。

今後、本知恵袋を通して、市内多職種がその課題意識を共有し、また一丸となって円滑な支援を行うことで、身寄りのいない高齢者であっても住みやすく、最期まで自分らしく暮らせるまちづくりを目指したいと考えています。

「身元保証人」と「身元引受人」の違いはP32（用語解説）を参照

2 「身寄りのいない人」の定義

本知恵袋における「身寄りのいない人」の定義については、以下のとおりとします。

- (1) 親族がいない人（**自称含む**）
- (2) 親族はいるが、「**連絡がつかない**」または「**支援が得られない**」状況にある人

3 身寄りのいない人の支援にあたって知っておくべき知識



「身寄りのいない高齢者支援のための知恵袋」の概要を尼崎市健康福祉局福祉部包括支援担当寺沢課長の説明動画を画面共有しました。

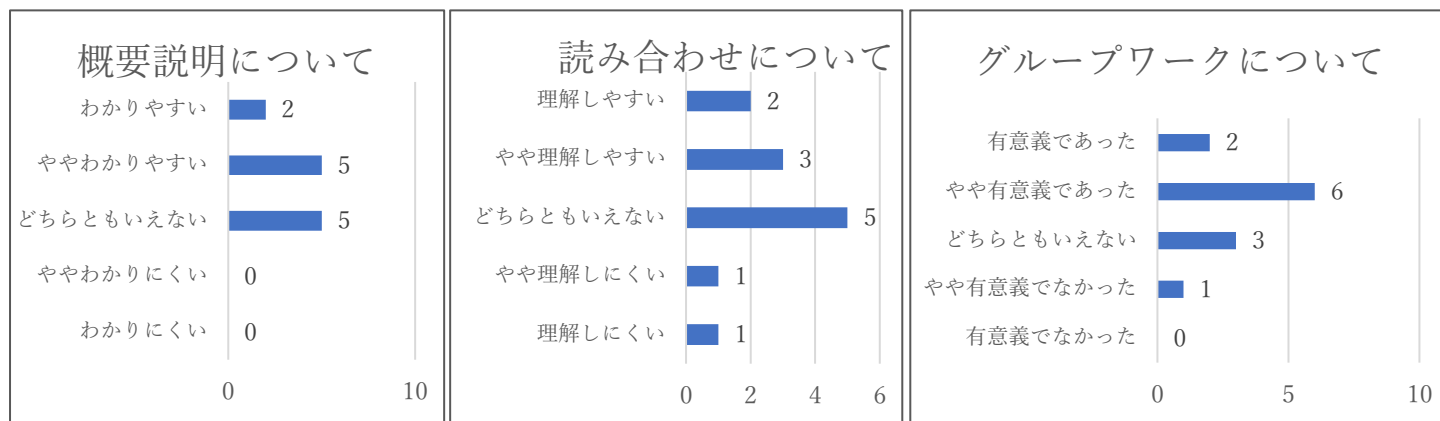
グループワークで、「身寄りのいない高齢者支援のための知恵袋」の一部を読み合わせした後に、これまでの経験や、知恵袋について思ったことや、気づいたことを話し合い、発表しました。



アンケート結果

Webでのアンケートにご回答頂きました。回答率 75%

* 参加者の職種は、全員ケアマネジャーでした。



感想・意見

- 参考になりました。ありがとうございました。
- グループワークが小人数で必然的に発言する必要があった、これはよかったと思います。自身の事例を詳しくお話することが出来たと思われま。
- まとまりのない発言になってしまうので、いつもグループの人に申し訳ないなと思います。皆さんの話を聞くのはとても勉強になります。
- Zoomの扱い方が慣れてなくて聞き取りが難しかったです。
- 音や声がききとりにくい場面がありました。
- 初めてのzoomでのグループワークを体験させていただきました。通常のグループワークよりzoomの方がやりやすかったです。
- リモートでのグループワークを始めてさせて頂きました。慣れなかったのが不手際があったと思います。もう少し慣れないといけないと反省しています。
- ZOOMのグループワークは聞き取りにくく、環境が整っていない為話し合いしにくかったです。